

説教ポイント

あなたの心を守る方

フィリピ四・四七

目に見える持ち物や自分の身体ならば不慮の事態から守ろうと気を配ります。でも、目に見えない「心」については意外と無頓着。だからこそ気をつけて「心」を守っていかねばなりません。

北海道の真ん中富良野市で演劇塾を開いていた倉本聰さんが語っていた話。「若い役者が村の木こりの役をやるうとした。カメラが回り始めると、彼は意気込んで両足をふんばり、力いっぱい勢いよくのこぎりを引き始めた。どこか違う…。村の本物の木こりをよく観察してくるよう倉本さんは勧めました。やはり、まったく違った。本物の木こりのおじさんは切り株の一つにどつかとこしかけて、ゆっくりゆっくりのこぎりを引いていた。あまりにもものんびりと。」なぜだか分か

るか。お前は演技の中でだけ木こりになったつもりで頑張り木を切っていた。しかし、彼は毎日木こりをしているんだ。そんなに頑張ったら疲れて続かない。ゆっくり歯を引きながら、仲間と会話し、家族とふれあい、後輩の面倒を見、そんな風にして日々を過ごし、長く木こりを続けている。人が働くとはそういうものだ。

忙しいという字は「心を亡くす」と書きます。日々忙しさの中で大切な「心」を見失っていく私たち。木こりが、のこぎりの歯がぼろぼろになっっているのに研ぐ時間がないほど「忙しい」といったら、やがて働くこともできなくなるでしょう。神様にいただいた私たちの人生も十分生かし用いるためには、やはり心のメンテナンスが必要です。私たちの心のメンテ、それはこの毎週の礼拝。パウロがフィリピの手紙の中で、「あなたがたの心を守ってくださいる方がいる」と言っている、祈りの場です。